

### ルワンダ

#### ARC ルワンダ奨学基金

昨年11月以来、多くの方からのご寄付が寄せられました。この場でお礼申し上げます。今日は、この事業をともにすすめる団体「AMIDOR」のご紹介をさせていただきます。

AMIDOR (Amis des Orphelins : 孤児の友達)

創設者 : Marian NYIRABUHACYE (1945年8月15日生まれ)

#### 1. ママ・マリアン

ママ・マリアンは若い頃から、貧しい人達や HIV / AIDS にかかっている人達を助けるための活動を行っていました。しかし、1994年4月に虐殺が始まり、この会の活動を継続することが出来なくなりました。当時、多くの人々が殺されるのを待つかのように身を隠しており、彼女も例外ではありませんでした。

1994年6月14日のことです。ニャカバンダ(首都キガリの地区)で、彼女は死んだ母親の側で眠っている女の赤ちゃんを見つけました。この時彼女は、絶望の中でも自分はまだここで生きているのだということに気づきました。彼女は赤ちゃんを拾い上げ、一緒に生きていこうと決心します。そして、他にももっとこのような赤ちゃんがいるかも知れないと思い、死体の山の中から生きている赤ちゃんや子どもを探し始めました。

マリアンには2人の子どもがいましたが戦争中に亡くなりました。彼女はたくさんいた兄弟姉妹の中で下から2番目でしたが、戦争でそのほとんどの兄弟姉妹、また彼等の子供たちを亡くしました。当時彼女は家族全てを失ったと思っていたのですが、1994年8月に兄の息子兄弟2人が生き残っていたことを知り、彼等を養育します。現在成人した彼等のうち1人は時々マリアンを手伝い、もう1人は働いています。身内の話をするマリアンはボロボロ涙を流し、この話をするのはとても辛いと言いました。



#### 2. 1994年の虐殺と子どもたち

7月4日までに95人の孤児が集まり、その内9人が1歳以下の赤ちゃんでした。内戦が終わり、マリアンは前から借りていた家に戻りました。彼女が親切にたくさん孤児の面倒を見ていることが、次第に地域の人達に知られるようになり、色々な人が孤児を連れて来たため、孤児の数は204人に膨れ上がりました。マリアンの活動は更に人々に知れるところとなり、ますます多くの人達が孤児を連れて来たので、一時期、孤児の数は500人に達しました。

### 3. 孤児達の現在

2002年5月以来、食料品が同一のものばかりで変化が無く、栄養のバランスが悪いのでそれが問題になっています。他に、緊急に看護婦と医薬品も必要としています。2002年10月現在、15歳から生後1ヶ月までの孤児達の数は89人でしたが、私が訪問した日の翌日には、もう1人赤ちゃんが増えるので、90人になると話していました。現在44人が小学校に行き、あるNGOの学費援助で1人が中学校に行き、そして12人が託児所に行きます。1996年以降は、親がHIV/AIDSで亡くなって孤児になったり、また親が貧しく養育出来なくて捨てられた子ども達がやってくるようになりました。マリアンは、



ここにいる子供たちは大きく分けて2つのグループに分けられると言います。94年の虐殺時の戦災孤児と、戦後のエイズ孤児です。彼女がここを始めてから既に70人の子どもが亡くなりました。3人を除いて皆エイズで亡くなりました。1998年からは子供たちにエイズ検査をしていますが、差別等を防ぐために子供たちに結果を知らせたり、感染している子どもを隔離したりはしません。約半数の子供たちがHIVに感染しているので、けがをして出血した時などは特別な配慮が必要です。

(報告：高美穂)

ARC ルワンダ奨学基金にご寄付くださった方々(2003年1月31日現在。敬称略。)

### ありがとうございました！

- 6口 宗教法人華厳院(6人×1年)
- 4口 イザンベール真美(2人×2年)
- 3口 金剛禅総本山少林寺大館三ノ丸道院有志(3人×1年)
- 2口 不破吉太郎(2人×1年)
- 1口 生方典子(1人×1年)、武智尚子(1人×1年)、本岡多津子(1人×1年)、山崎幹子(1人×1年)、伊東絵奈(1人×1年)、石井稔(1人×1年)、金光結香(1人×1年)、矢内原勝(1人×1年)、西田有成(1人×1年)、田村千亜希(1人×1年)

### 「ARCルワンダ奨学基金」とは

1口8000円の支援金で、ルワンダの子ども1人が1年間学校に通えます！

あなたの支援している子どもの写真があなたのもとに届きます！

支援金の内訳は・・・

年間授業料：約1,800円(6,000ルワンダ・フラン) 文房具：約600円(2,000ルワンダ・フラン)

制服：約900円(3,000ルワンダ・フラン) カバン：約900円(3,000ルワンダ・フラン)

その他：送金手数料、フィルム代、現像代、郵送費などの事務経費

(\* 支援対象となる子どもたちは、現地の孤児院などの支援団体と協議の上、決定いたします。)

支援金のお振込は・・・

郵便振替口座番号 00250-2-57833

口座名義人 アフリカ平和再建委員会 (\* 通信欄に「ルワンダ奨学基金」とご記入ください)

## 女性洋裁技術訓練活動

半年ごとの洋裁技術指導も円滑に進むようになってきました。訓練所の自立的運営および卒業生の所得向上に向けて、ルワンダのスタッフと共に取り組んでいきます。2002年11月から3ヶ月間、洋裁・手工芸品指導専門家の七尾明紀が赴任し、指導している技術を応用したサンプル作成などを行ってきました。最近の活動の様子を御覧ください。



訓練所の入口



訓練所コーディネーター、ブランディーン（左）と  
打ち合わせ中の高美穂・ARCルワンダ代表。



訓練所でコーディネーターと生徒に自作  
商品サンプルの作り方を説明する七尾



訓練所で商品サンプルを制作中の七尾



現地指導員による指導風景

# ARCの活動へのご協力をお願いします！

## 第3回東京アフリカ開発会議にむけて

2003年秋、第3回東京アフリカ開発会議(Tokyo International Conference on African Development: TICAD)が開催されます。

NGO側の動き アフリカにかかわる日本のNGOは、TICADに市民の声、何よりもアフリカの人々や市民社会の声を反映させようと、TICADのための市民行動(Action Civile pour TICAD: 略称 ACT2003)を立ち上げました。

ARCの参画 ARCはこれまで、小峯事務局長がACT2003会合に参加してきました。ACT2003では、(1)TICAD本会議で採択される「宣言文」へのNGO側の意見の反映、(2)本会議へのNGO(日本、海外)出席、(3)TICAD1~2をうけて行われてきた活動のレビューを進めていこうとしています。

(3)のレビューについては、分野ごとの分科会が作られ、ARCは紛争予防・平和構築分科会に参加します。

## ACT2003-紛争予防・平和構築分科会(仮称)

(仮・構成団体)

アフリカ平和再建委員会(ARC) 特定非営利活動法人 JEN

特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR) モザンビーク支援ネットワーク



## ご入会のおすすめ

ARCの会員になると・・・

- ・ニューズレター「Peace Building」の購読ができます。
- ・ARC主催の報告会・シンポジウムへ無料参加できます。
- ・今後設置予定の「ARCアフリカ紛争研究会 仮称」への出席、報告の資格を得られます。
- ・会員用メーリングリストへの参加資格を得られます。意見交換、情報交換が可能。
- ・ARCが保有するアフリカ紛争に関する資料の閲覧や、現地の情報を照会できます。

## 資料請求

- ・無料でお送りいたします。お気軽にお問い合わせください。
- ・電話 [045-439-4003](tel:045-439-4003) E-Mail [intrband@gol.com](mailto:intrband@gol.com)

## 寄付のお願い

ARCの活動にご賛同くださる方の寄付をお待ちしております。海外での活動報告をお送りします。

振込先 郵便振替口座番号 00250-2-57833  
名義人 アフリカ平和再建委員会

## ARCルワンダ事務所メールマガジン〔無料〕

ARCルワンダ事務所より、遠くて遠いルワンダのことをもっと身近に感じて頂くためのメール通信を開始いたしました！どなたでも登録すれば御覧になれます。

登録はこちらから！

<http://www.egroups.co.jp/group/arcrwanda>

アフリカ平和再建委員会 (Africa Reconciliation Committee: ARC)

〒222-0026 神奈川県横浜市港北区篠原町2816-22

Tel: 045-439-4003 Fax: 045-439-4004

E-mail: [intrband@gol.com](mailto:intrband@gol.com) ホームページ <http://www2.gol.com/users/intrband/arc>

